

令和4年度
「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師の
かかりつけ機能強化事業【第2期】」
における「事業2」に係る
都道府県薬剤師会実施事業（モデル事業）
事業報告書

令和5年5月1日
山口県薬剤師会

◆取組テーマ：妊産婦の医薬品適正使用

妊産婦等における適切な服薬管理や女性の健康を支援できるよう、医薬品等に係る相談体制を充実させ、医薬品等の適正使用を推進するための取組

◆地域の現状と課題

本県の人口は、1985年（昭和60年）の160万人から一貫して減少を続けており、2020年（令和2年）には134万人まで減少し、2045年（令和27年）には、本県の人口は104万人にまで減少すると予測されている。人口減少の要因は、特に少子高齢化の進展を背景に自然減が大幅に拡大しており令和3年度で見ると、自然減が11.5%、社会減が3.1%となっている。

出生数減少の原因としては、晩婚化や出産年齢及び50歳時の未婚割合が上昇していることに起因している。既婚者の理想とする子供の数は、「2人」、「3人」を合わせると80%を超えている一方、既婚者が理想の子供の数を持たない理由としては、「不妊や健康上の理由」、「高齢での出産が嫌、できない」など、身体への負担を理由が50%近くに上っている。

本県には、妊婦検診・お産を扱う医療機関として48機関（うち総合及び地域周産期母子医療センターとして6機関）が存在するが、第2次医療圏ごとの分布をみると、宇部・小野田圏域12に対し、長門圏域1と地域的偏在が大きく、県民が等しくアクセスできる環境にない。

薬剤師職能として、妊産婦等における医薬品適正使用および適切な服薬管理は大変重要であり、常に自己研鑽が必要な分野である。また、かかりつけ機能の充実を目指す昨今においては、妊産婦が安心して相談できる体制を相当数整備することが求められる。

山口県では、令和2年度から「山口県健康エキスパート薬剤師」という、薬学的な健康サポートにより総合的に県民の健康等ニーズに対応できる登録制度が創設されているため、今回の事業を活用し、山口県健康エキスパート薬剤師を中心とした更なる妊産婦に焦点をあてた女性の健康を支援できる薬局薬剤師を県内全域において養成し、医薬品等の適正使用・相談体制の充実を図ると共に、多職種との連携強化により、受診が必要な者を早期に医療につなげる仕組みの構築を目指す。

◆実施方法

(1) 県内の産婦人科医会・助産師会所属医療機関を対象にアンケート調査を実施し、妊産婦等に対して薬剤師・薬局に期待する事項を抽出。（処方箋調剤時の薬局での対応、医薬品等販売時の相談対応・受診勧奨、妊婦や授乳中における薬の適正使用、健康食品・運動に関するアドバイス、多職種連携等）

(2) (1) のアンケートを基に必要な研修プログラムを作成、実施

① 「産婦人科領域における病態・薬物治療・健康支援および薬剤師に期待すること」

講師：林 公一（独立行政法人国立病院機構関門医療センター産婦人科医長）

② 「成育医療の現状と課題～プレコンセプションケアと妊産婦に対する薬学的ケア」

講師：川名 三知代（日本薬剤師会 理事）

(3) 研修修了者の所属施設において3月6日～16日の間、「妊産婦相談対応強化期間」として妊産婦を対象とした支援活動を展開。妊産婦に向けて妊娠・授乳中に困った事、また現在困っている事のアンケートを実施。山口県薬務課ホームページの健康エキスパート薬剤師の主に取り組む健康サポート欄に「妊産婦の健康支援」を追記。

◆アンケート結果

医療機関や助産所を対象としたアンケート

妊産婦等の薬物治療について薬剤師に意見を求めることはありますか。

よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ ない

	よくある	時々ある	あまりない	ない
医師	2	5	8	10
助産師		5	5	1
看護師			1	1
その他				

「よくある・時々ある」を選択された方、それはどのような内容ですか。（複数回答可）

- () 処方薬の選択 () 服用可能な医薬品
 () 服用不可の場合の代替薬 () 処方薬の用法・用量
 () 医薬品の胎児への影響（妊娠中）
 () 医薬品の乳幼児への影響（授乳中）

	医師	助産師	看護師	その他
処方薬の選択	2	2		
服用不可の場合の代替薬	4	2		
医薬品の胎児への影響（妊娠中）	3	2		
医薬品の乳幼児への影響（授乳中）	3	3		
服用可能な医薬品	5	4		
処方薬の用法・用量	1	2		

妊産婦等に薬剤師に相談するよう勧めることはありますか？

よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ ない

	よくある	時々ある	あまりない	ない
医師	2	2	12	8
助産師	1	10	1	
看護師			1	
その他				

「よくある・時々ある」を選択された方、それはどのような事についてですか。（複数回答可）

- () 医薬品の服用方法・使用方法
- () 他の医薬品との併用の可否
- () 医薬品による副作用または副作用発現時の対処法
- () 医薬品と健康食品や嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)との併用
- () 健康食品や嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)について
- () 食事や運動などについて

	医師	助産師	看護師	その他
医薬品の服用方法・使用方法	3	8		
他の医薬品との併用の可否	3	5		
医薬品による副作用または副作用発現時の対処法	2	3		
医薬品と健康食品や嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)との併用	1	3		
健康食品や嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)について	1	4		
食事や運動などについて		1		

妊産婦等からの処方箋を受け付けた時、処方薬の基本的な確認事項以外に薬剤師に必ず確認して欲しい事は何ですか。（複数回答可）

- () 定期的に服用する医薬品（外用薬含む）
- () 定期的に使用する健康食品
- () 嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)の摂取状況
- () 妊婦の妊娠週数や授乳婦の子供の月齢（年齢）
- () 妊娠中、授乳中に医薬品を服用することへの不安や疑念の有無

	医師	助産師	看護師	その他
定期的に服用する医薬品（外用薬含む）	12	6	1	
定期的に使用する健康食品	4	5	1	
嗜好品(酒、タバコ、コーヒーなど)の摂取状況	3	3	1	
妊婦の妊娠週数や授乳婦の子供の月齢（年齢）	13	6	1	
妊娠中、授乳中に医薬品を服用することへの不安や疑念の有無	12	12	2	

薬剤師が妊産婦等から相談を受けたときに知り得た内容のうち、積極的に薬局から報告して欲しい事は何ですか。（複数回答可）

- () 処方薬の服薬コンプライアンス
- () 他医療機関への受診状況や併用薬
- () 副作用が疑われる症状
- () 市販薬や健康食品の摂取状況
- () 妊産婦等からの薬局への電話相談や健康相談の内容

	医師	助産師	看護師	その他
処方薬の服薬コンプライアンス	8	6		
他医療機関への受診状況や併用薬	10	5		
副作用が疑われる症状	16	9	1	
市販薬や健康食品の摂取状況	3	3		
妊産婦等からの薬局への電話相談や健康相談の内容	14	6		

薬剤師向けアンケート

【性別】

プレアンケート

男性：52名 女性：120名

ポストアンケート

男性：40名 女性：103名

【山口県エキスパート薬剤師であるorない】

プレアンケート

山口県エキスパート薬剤師：70名

山口県エキスパート薬剤師でない：102名

ポストアンケート

山口県エキスパート薬剤師：69名

山口県エキスパート薬剤師でない：74名

①妊産婦の対応に自信がある

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	54名	59名	49名	9名	1名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	8名	32名	66名	34名	3名

②薬の有益性投与について判断できる

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	24名	55名	66名	24名	3名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	4名	23名	53名	55名	8名

③医師からの問い合わせに対応ができる

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	27名	47名	75名	21名	2名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	7名	29名	68名	36名	3名

④サプリメント等の質問に対応ができる

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	32名	75名	48名	17名	0名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	11名	33名	59名	35名	5名

⑤多職種と連携が取れる

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	32名	50名	64名	21名	5名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	9名	31名	64名	34名	5名

⑥運動についてのアドバイスができる

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	46名	64名	49名	13名	0名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	20名	31名	69名	21名	2名

⑦妊産婦の服薬指導に自信をもって臨める

プレ	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	47名	53名	60名	11名	1名

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	8名	28名	66名	40名	1名

⑧研修内容が今後の業務に役立つ

ポスト	そう思わない				そう思う
選択肢	1	2	3	4	5
人数	0名	5名	21名	64名	53名

研修を受講して困ったことは解決しそうか、今後妊産婦の研修で追加してほしい項目などあればご記入下さい。

- 妊産婦のメンタルケア（60代男性 エキスパート薬剤師）
- 特別困ったことがあったわけではなかったので、知識の再確認ができたという感じでした。今後研修がある場合は、実際の産婦人科の処方箋の具体例をだしていただいて、処方意図や服薬指導の例などを聞きたいです。（40代女性 エキスパート薬剤師）
- 妊産婦の服薬指導、具体的に例をあげての研修会をしてほしい（60代女性）
- 実例を交えた内容（40代男性 エキスパート薬剤師）
- サプリメントや健康食品、食品など、食生活に関連するものの各論的な研修（40代女性 エキスパート薬剤師）
- 妊娠の有無の確認方法の手段は、揭示はしているが他にもあるといいです。疑義紹介の対応について知りたい。有益性をどう判断するかで疑義するかどうか迷うときがあります。（40代男性 エキスパート薬剤師）
- 添付文書の読み取り方や参考文献は、とても参考になりました。妊産婦の服薬指導をする機会は少ないのですが、これを機に勉強して理解を深めたいと思います。（40代女性）
- 妊婦の運動（40代女性 エキスパート薬剤師）
- 妊娠前より関わりをもっていく姿勢が重要なのだとあらためて自覚しました。（50代女性 エキスパート薬剤師）
- 普段から産婦人科や不妊治療の患者対応は多いので、講演内容については概ね理解していたが、実際に対応するとすると、医薬品ごとのリスクについて書籍やインターネットなどの情報に頼らざるを得ない。ものすごくナーバスな問題なので、対応困難な事例をたくさん紹介するなど、更に踏み込んだ継続的な研修会の開催を望みます。（50代男性 エキスパート薬剤師）

- 各疾患をもつ妊産婦への対応、医療ケア児の実際の対応例（60代女性 エキスパート薬剤師）
- ある程度、妊産婦対応に対する自信がついたように思いますが、細かな薬剤の影響など一概に問題なしと判断できないことも多いので、今後も研鑽を続けていく必要があると感じました。妊産婦が求めている薬局薬剤師に対するニーズが把握された調査がございましたら、それについても共有頂き、それに基づく具体的なアドバイス事例などがあれば今後の研修等を通じて知りたいです。（30代男性 エキスパート薬剤師）
- 休日での緊急避妊薬の対応とその課題（60代男性 エキスパート薬剤師）
- ホルモン製剤について。サプリメントについて（40代女性 エキスパート薬剤師）
- 妊娠中の方や授乳中の方は薬の服用に対して、抵抗感があることが多いように思います。今回の研修会を参考に、薬が必要な場合に、心理的な不安を取り除けるような対応をできるように心がけていきたいと思いました。今回の研修会の中で妊婦さんではコレステロール値が上昇するとお聞きしました。今後の研修会で、妊娠中に起こる合併症や検査値の異常など、基礎的なことも含めて頂けると勉強になると思いました。（40代男性 エキスパート薬剤師）
- 大変勉強になりました。授乳婦への服薬に受講前より自信がもてます。困っていた事が解決しました。（50代女性）
- 今まで、参考にしてきた書籍、国立成育センターHPなど以外の情報元や、これからさらに学ぶことのできる情報を知ることができ有用であった。学校薬剤師として学生に情報提供できることもあるのではと思う。対応の仕方は人それぞれで難しいと思うが、例えば精神疾患患者対応マニュアルがあるならその情報が欲しい。（50代女性 エキスパート薬剤師）
- 解決出来ている。今後、服薬指導で実際に使える言葉など紹介して欲しい。服薬指導で困ったことや解決法など。（40代女性 エキスパート薬剤師）

妊産婦対象アンケート

Q 1. 年代を教えてください。

10代 20代 30代 40代 50代

年代	10代	20代	30代	40代	50代
回答	1	68	73	6	1

Q 2. 現在、妊娠中ですか、授乳中ですか？

妊娠中 授乳中

	妊娠中	授乳中
回答	88	61

Q 3. 現在、お子様は何人おられますか？

0人（第一子妊娠中） 1人 2人 3人 4人 5人以上

	0人	1人	2人	3人	4人	5人
回答	43	66	32	7	1	0

Q 5. どのようなことについて悩まれましたか？（複数回答可）

①医薬品（市販薬含む） ②健康食品・サプリメント ③食事・運動といった生活環境

④その他（例：コロナワクチンなど）

	①	②	③	④
回答	88	29	59	2

その他回答：コロナワクチン接種、マイナートラブル、むくみ、貧血

Q 6. 医薬品（市販薬含む）についてどのようなことを悩まれましたか？（複数回答可）

①医薬品の選択（銘柄） ②効能効果 ③服用量・服用方法
④飲み合わせ ⑤副作用 ⑥胎児、乳児への影響 ⑦その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
回答	44	11	14	21	23	108	1

その他回答：マイナートラブルに有効な薬はないか

Q 7. 健康食品・サプリメントについてどのようなことを悩まれましたか？（複数回答可）

①健康食品・サプリメントの選択（銘柄） ②効能効果 ③摂取量・摂取方法
④医薬品等との飲み合わせ ⑤副作用 ⑥胎児、乳児への影響 ⑦その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
回答	14	7	15	10	11	65	0

Q 8. 食事・運動といった生活環境についてどのようなことを悩まれたか記入してください。

- お酒を飲みたいが我慢している
- つわりで食事がとれなかったときの栄養面。
- つわりで食事が偏ったこと
- つわり中にごはんが食べられなかったこと、体調、気候などでウォーキングなど運動ができなかったこと
- どの程度の運動をしたらよいか、してもよいか
- 栄養バランス、悪阻で食欲ないこと
- 好きなものが食べられない。(生肉など)、運動不足による筋力の低下で身体がだるい。
- 仕事内容や日数について
- 時間が取りづらい
- 自転車こぐのはまあまあできた 36wまでできた。
- むくみが大変だった スシも妊婦の寿司ができたとTVで放映してたが果たして必要かとは思う。
- 自分の食べている食事の栄養量が適切かどうか。全然運動でできていない。
- 自分の身体の状態と運動習慣について、どれくらい動いて大丈夫なのか(第一子)
- 栄養面と血糖値を気にしての食事(第一子、二子)
- 食べても太る
- 食べない方がいいと言われる食材を食べている妊婦さんもいる。胎児に何かあったら嫌なので食べないが、気にしすぎなのかと思ってしまう。
- 食べられないものがある
- 食事があまり食べれない

- 身体が重くてなかなか運動できない
- 辛いものが好きなので母乳の味を心配した。結果、授乳中食べるのは控えました。
- 生物(刺し身)を控えるようにした。人が集まるところに行かなくなった。(極力外出を控える)
- 太りたくないとか、どれだけの運動が可能なのか
- 胎児への影響
- 知識がないためどうしたらよいか悩んだ
- 適切な食事量、運動量
- 妊娠6カ月後半の時子宮頸管無力症になり、自宅療養、ベッド上安静を強いられた。運動や生活動作も制限されていたので、体重管理に悩んだ。
- 妊娠中に禁止されてるものを調べたり、何をどのくらい食べても大丈夫か。
- 必要な栄養が摂取できているか、赤ちゃんに悪影響な栄養をとっていないか
- 便秘
- 母体に良い食事が分からない
(一部抜粋)

Q 9. 相談先についてお伺いします。

悩まれたことがあった際に、どのような方に相談されますか？ (複数回答可)

- ①医師 (産婦人科医) ②医師 (かかりつけの医師など) ③助産師 ④看護師
- ⑤薬剤師 (産婦人科近くの薬局) ⑥薬剤師 (かかりつけ薬剤師など)
- ⑦自治体の相談窓口 ⑧家族や友人など ⑨インターネットやSNS ⑩その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
回答	107	25	28	23	20	9	6	61	40	0

Q10. Q9で、「インターネット、SNS」を選択された方にお伺いします。

妊娠・授乳中に活用されるサイト名やSNSの種類などあれば記入してください。

- Google検索
- Instagram
- Twitter
- Yahoo!知恵袋など
- たまひよ ルナルナベビー
- トツキトオカアプリ
- なし
- パンパース
- ベビーカレンダー
- ままのて(アプリ)他色々とにかく検索
- ママリ、教えてドクター
- 母子手帳アプリ母子も ゼクシィベビー

Q11. 医薬品の情報提供の他に、薬剤師に求める点を教えてください。

- かりつけであれば、この薬は前にアレルギー出てるよ、とか気がついてくれると助かる
- わかりやすい説明
- 安全性、効果
- 飲み合わせ
- 飲み方、他の薬との飲み合わせ、薬剤師の視点から見た用法用量やアドバイス
- 飲む前に相談ができる、どの銘柄ならいい、週数どこまでいいなど具体的に、がいいんでしょう 本人選択できるようにとは言うからそう専門職としては指導するけど、こっちとあっちどっちがいいか?知りたいが本音。認定薬剤師としては文献など読んで説明きいてDIつけて精査するけども、本人はどこまで?とおもったりはする。データ収集の結果を残すやり方を知りたい。
- 効き目、どのように使うのか
- 市販薬でオススメの薬など
- 笑顔
- 早さ
- 胎児・子どもへの影響の有無の確認
- 胎児への影響
- 胎児への影響の有無・母体への副作用
- 妊娠中でも安全であると言ってもらえるだけでも安心して薬を飲む
- 妊婦、産婦への注意事項があれば合わせて伝えてほしい。
- 副作用
- 副作用やデメリットもあればできれば教えてほしい
- 薬の説明
- 優しさ、質問のしやすさ

◆評価

(i) に示す薬剤師向け研修会の前後および妊産婦相談対応強化期間終了後に、薬剤師を対象としたアンケートを実施し、妊産婦等に対する医薬品等の適正使用や相談対応に対し、どのように意識変化が起こったかを調査した。

- ・ 研修会プレアンケート（研修会実施直前） 回答数 172
- ・ 研修会ポストアンケート（研修会実施直後） 回答数 143
- ・ 妊産婦相談対応強化期間後ポストアンケート 回答数 92

アンケートの項目毎に5段階評価とし、平均値にて研修前後と相談対応期間後の変化を判定した。

	プレ	ポスト	相談対応期間後
1. 妊産婦の対応に自信がある	2.0	→ 2.9	→ 2.8
2. 薬の有益性投与について判断できる	2.6	→ 3.3	→ 3.2
3. 医師からの問い合わせに対応ができる	2.6	→ 3.0	→ 3.0
4. サプリメント等の質問に対応ができる	2.3	→ 2.9	→ 2.8
5. 他職種と連携が取れる	2.5	→ 3.0	→ 3.1
6. 運動についてのアドバイスができる	2.2	→ 2.7	→ 2.7
7. 妊産婦の服薬指導に自信をもって臨める	2.2	→ 3.0	→ 2.8
8. 研修内容が今後の業務の役に立つ（ポストのみ）		3.4	→ 4.2

研修会前後では、平均で0.63ptの上昇となり、相談対応期間後では0.58ptの上昇となった。

ポストアンケートのみの設問「8. 研修内容が今後の業務の役に立つ」の平均値が相談対応期間後に0.8ptの上昇となったことは、研修内容が実務に役立つものであり、患者や地域住民に対して有意義であったと推測する。

◆今後の展開

・ 当該報告書掲載ページを都道府県、市町村の母子保健主管部局、児童福祉主管部局、女性の健康支援センター等に共有し、連携した広報活動や取り組みを行う。

・ 本報告書を本会会報誌「Y Pジャーナル」に掲載し会員に向けても成果を情報発信する。

・ 妊産婦・薬剤師・医療関係者対象アンケートの検証結果を学術大会等で発表する。

※第56回日本薬剤師会学術大会（和歌山）で発表予定

・ 本年度事業を踏まえ、山口県健康エキスパート薬剤師を中心に保険薬局部会等と連携をとりアンケート内容を取り入れた研修会を実施する。

◆参加者所属薬局の公表

山口県薬剤師会ホームページ

<https://yama-yaku.or.jp/2023/04/04/r4pregnant/>

妊娠・授乳中で 薬の服用が 気になる方へ

妊娠前・妊娠中に
困ったこと

病院に
行こうか
迷うとき

出産への
不安

妊娠前の
準備は？

授乳中に
困ったこと

薬を
飲んでも
大丈夫？

育児の
不安

気を付ける
べき事は？

お母さんと赤ちゃんのために、妊娠中・授乳中でもお薬が必要な場合があります。服薬に関してご不安な事がありましたら主治医や薬剤師に相談することが大切です。山口県では山口県健康エキスパート薬剤師を中心に女性の健康を支援できる体制を整えています。お気軽にご相談ください。

薬局



※令和5年3月6日～3月16日は相談対応強化期間として妊産婦の方を対象にアンケートを実施いたします。